

台北(桃園)-マニラ線 フィリピン航空とのコードシェア開始

台湾を代表する航空会社チャイナ エアライン(本社:台湾 桃園県)は、台北(桃園)ーマニラ線においてフィリピン航空とのコードシェアを開始し、両社による同路線の運航便数は週 21 便となりました。

また、PAL ホールディングス社長兼最高執行責任者(COO) Jaime J. Bautista と、チャイナ エアライン取締役会長 孫 洪祥は 12 月 14 日、お客様へさらなる利便性と高品質なサービスを提供していくことを目的としたパートナー関係を、今後とも拡大させていくことで合意いたしました。

チャイナ エアラインは、航空輸送需要の著しい増加が見込まれる東南アジア地域に対し、今後ともネットワークの拡充を図ってまいります。現在チャイナ エアラインでは、台湾-フィリピン間において、台北(桃園)-マニラ線、高雄-マニラ線、台北(桃園)-カリボ線を合計で週 22 便運航しているほか、東南アジア地域全体では 16 空港へ週 155 便のフライトを運航しています。

記

● 台北(桃園)ーマニラ線スケジュール

出発空港	CAL便名	PAL便名	運航曜日	出発時刻	到着時刻	到着空港	運航会社	使用機材
台北(桃園)	CI701	PR871	毎日	07:35	09:40	マニラ	チャイナエアライン	B744/A333
	CI9803	PR897	月火木	10:40	13:05		フィリピン航空	A320/A321
	CI703	PR873	毎日	13:45	15:50		チャイナエアライン	B744/A333
	CI9801	PR895	金	15:50	18:30		フィリピン航空	A320/A321
	CI9805	PR899	火水 日	17:45 18:35	20:15 21:05		フィリピン航空	A320/A321
マニラ	CI9802	PR896	月火水木金 土	07:35 07:40	09:40 09:45	台北(桃園)	フィリピン航空	A320/A321
	CI702	PR872	毎日	10:45	12:45		チャイナエアライン	B744/A333
	CI9800	PR894	金	12:30	14:55		フィリピン航空	A320/A321
	CI704	PR874	毎日	16:55	18:55		チャイナエアライン	B744/A333

*上記は、2015年12月14日現在のスケジュールであり、予告なく変更されることがあります。

以上

チャイナ エアラインについて

- | | | |
|--|--------------------------------|--------------------------|
| □本社所在地：台湾 桃園市大園區航站南路一號 | □就航空港数：29 개국・地域 118 空港 | □加盟アライアンス：スカイチーム |
| □設立年月日：1959年12月16日 | □資本金：54,700,731,560 台湾ドル | □所有機材数：90 機 |
| □平均機齢：10.2 年 | □取締役会長：孫 洪祥 (Huang-Hsiang SUN) | □日本支社長：石 炳煌 (Scott SHIH) |
| □日本支社拠点：札幌支店、東京支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店、沖縄支店、静岡営業所、富山営業所、高松営業所、熊本営業所、宮崎営業所、鹿児島営業所 | | |

※ データは全て本リリース発行時現在のものです。

当社に関する記事や番組等を製作される際には、当社の日本における正式な名称である「チャイナ エアライン」と記載、または呼称してください。



左：チャイナ エアライン取締役会長 孫 洪祥 / 右：PAL ホールディングス社長兼最高執行責任者(COO) Jaime J. Bautista

チャイナ エアラインについて

- | | | |
|---|---------------------------------|---------------------------|
| □本社所在地： 台湾 桃園市大園區航站南路一號 | □就航空港数： 29 各国・地域 118 空港 | □加盟アライアンス： スカイチーム |
| □設立年月日： 1959 年 12 月 16 日 | □資本金： 54,700,731,560 台湾ドル | □所有機材数： 90 機 |
| □平均機齢： 10.2 年 | □取締役会長： 孫 洪祥 (Huang-Hsiang SUN) | □日本支社長： 石 炳煌 (Scott SHIH) |
| □日本支社拠点： 札幌支店、東京支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店、沖縄支店、静岡営業所、富山営業所、高松営業所、熊本営業所、宮崎営業所、鹿児島営業所 | | |

※ データは全て本リリース発行時現在のものです。

当社に関する記事や番組等を製作される際には、当社の日本における正式な名称である「チャイナ エアライン」と記載、または呼称してください。